



今月の話題：新型コロナ禍は終息せず、国産ワクチンは製造の可能性はなさそうだ。輸入品ばかりに頼らざるを得ないのが情けない。行動自粛ばかりが喧伝されているが、1年余を過ぎ、高齢者にはフレイル対策が求められる事態になっている。こうした懸念を他所に、若者達がふざけた行動で感染を広げていることがTVで報じられている。我々も何か動かねばならぬ。社会にアピールする行動で何ができるだろうか(伊藤誠三)

□ 本部便り：(金森捷三郎 記)

・サーツ事務所はウイルスの感染拡大の予防の上から引き続きオフィス担当者を置いておりません。皆様にはご不便をおかけしますが、もし、事務所をご利用の場合は手の消毒、マスクの着用、換気、会議室の人数制限などのルールを厳守してください。いずれワクチンが行き渡りましたら明るい希望が見えてくると期待しています。

□ 建築部会：(岡本 直 記)

・オンライン方式によるサーツ寺子屋の情報発信の強化今年に入ってもコロナ禍はなかなか収束の兆しが見えてこない。その中では、企画WGと連携して開始したオンライン方式によるサーツ寺子屋において、これまで以上に一般市民向を対象としたテーマを選定し、社会との接点づくりを行うことが益々重要になるのではないだろうか。更には寺子屋、シンポジウム、ホームページ上の技術提案や技術相談(なんでも相談)を有機的に連動させた総合的なシステムを構築し、社会に向けての発信力強化に繋げたいとの思いがある。そのオンライン方式の第1弾として、昨年11月に小鹿紀英講師による「頻発する中規模地震と大規模地震発生の可能性」を開催し、参加者から好評を得た。別途、中央区で行った講演内容が中央区役所公式 you tube に公開されました。寺子屋に参加されなかった方は、ぜひ、こちらをご参照下さい。

<https://www.city.chuo.lg.jp/event/kouen/taishinfair.html>

この4月には谷垣正治講師による「地震災害に対するマンション生活継続計画—避難所に行かない選択のために—」を予定している。引き続き5月以降も社会的な関心の高いテーマを準備し、サーツ独自の専門的且つ中立的な立場からの情報発信に注力したいと考えている。悩みは、一般市民の方に情報がなかなか浸透せず参加者の確保に四苦八苦していることである。何とか50名規模の参加者を確保できるようにして、さらに100名規模に拡大していきたい。そのためにも、まず、会員の方に寺子屋に積極的に参加して頂き、更にサーツの活動に相応しいテーマを幅広く提案して頂ければと思う。そしてこの活動を地道に継続、充実させることで、やがて、サーツのオンライン上に新たな情報発信、意見交換の場が出現することに期待をかける。

□ 戸建住宅部会：(阿部市郎 記)

○令和3年度事業活動について

新年1月7日より発出された新型コロナウイルス緊急事態宣言は3月21日に解除されたが、現在の状況は予断を

許さない状況である。今後の部会は会議室とZoom参加による部会とZoom専門会議等を併用して活用実施してゆきたい。更に技術相談や補助金事業等の業務打ち合わせは、関係者で必要に応じ実施する。

1. 技術支援事業

・木造住宅合理化システム普及協会事務局業務は本年・事務休止中である。

・タウンハウス技術支援

・Mタウンハウス大規模改修支援進捗報告

22棟84戸のタウンハウスの大規模改修の準備中。監理者はサーツで契約予定。予定では2021年5月中旬着手、年末までの工事予定。

・U団地の中大規模改修支援

3月14日 団地修繕委員会で第4回大規模修繕予定決定、サーツは監理者として、今後施工会社及び発注金額の確認→理事会に上申し、5月着工予定

2. 調査研究事業

・令和元年度林野庁委託事業・デベロッパー(開発者)等のためのCLT WEB講座2020(1~5)3月2日の委員会及び11日の成果報告会は、無事終了した。視聴申込者は15日現在279名となっている。アンケートからは、9割以上の方より満足との回答をいただいた。また開催が危ぶまれた出前研修も2月26日に富山で実施され、40人ほどの参加があつた。

・林野庁CLT建築実証支援事業、「木質建築における新たな防耐火仕様の研究開発」昨年度の準耐火仕様壁と木製サッシ防火設備の開発に続く2年目の事業で今年度は木製サッシで片引きの腰窓と掃き出し窓、4体を試験。結果としては、45分防火設備の必要性能はクリア出来た。樹種や断面の変更等で、木製サッシで60分防火設備も十分挑戦可能などところであると推察される。

・令和2年度林野庁補助事業「枠組壁工法における国産材床構面開発事業」「新たな断面を加えた、新たな床組手法の開発と普及事業」最後のまとめ作業を進めている。セミナーについては3月12日と19日リモートで開催。ツーバイフォー建築協会を通じて案内中。委員からも案内している。

3. 令和3年度に新たに取り組む事業・研究等の検討

・木造戸建住宅の空き家の利活用にかかる取り組み検討について
以上

□ 集合住宅部会：(小畑晴治 記)

・これからの集合住宅部会を考える

新型コロナウイルス感染症は、収束の間際まで来て、またワクチン接種開始目前にきて、社会は第4波の脅威に翻弄さ



れている。100年前のスペイン風邪では、日本は当時の内務省統計で感染者約2300万人、死亡約38万人（一説には死亡45万人）という状況であったと伝わる。

その折、米国は675,000人が死亡したが、今回のCOVID-19でも50万人（第一次+第二次大戦+ベトナム戦争より多い死者数）を越す犠牲を出している。

この違いを念頭に、これからの日本の社会と住生活について、「建築技術者としての貢献」を果たすべき時ではないかと思う。幸いなことに昨年1年の“日本の人口減少”は、あれだけのコロナ感染死や災害犠牲者を出しながら、ここ数年と比べて『超過死亡』が無かった（2021.3.29日経）とのこと、気を緩めてはいけませんが、国民の意識の高さと医療関係者の尽力の賜物と評価できる。

その中で、我々建築技術者は、現代の住宅ストックの“安心居住”につながる性能を少しでも高め、まともな家のない生活者や危険と隣り合う生活者を極力減らすための取組をしたいと思う仲間がサーツには揃っている。

日本の集合住宅ストックの大半が、耐震性・耐火性を兼ね備え、洪水や液状化問題にも致命的な欠陥を露呈してこなかった点（自信）と、「1千兆円を越す国の借金を抱えながら、年間50万も人口が減少（生産年齢人口は年間70万人減少）する」社会の先行き（社会的脅威）をしっかりと見極める必要性を勘案しながら、“これまで以上に安心して、楽しく、健康的に暮らせるための集合住宅ストックづくり”で社会貢献を果たしたい。

□ マンション管理組合支援事業部：（丸山和郎 記）

・マンション管理組合支援活動復活への試み。（コロナ感染防止自粛期間を活かして）：2021年度も既に第1四半期を終えようとしています。今期は昨年とは異なり、当月3月度までの3か月間、新型コロナウイルス感染予防の自粛期間にも拘らず、支援継続中の5物件が順調に、或いはかなりタイトなスケジュールで動いています。

今回のレポートでは、13年前の大規模修繕工事のレポート案件の一つであるスカイビュー戸塚の以下3つのテーマについて理解を深める「長寿命化改修を目指した理事会検討会」なるものについて報告します。

スカイビュー戸塚は3棟からなる178戸、築36年のマンションで、広い集会所に6人の修繕委員が集まり、2年後の第3回大規模修繕工事に向け、地道な検討を進めています。

○1月度の検討テーマ

「大規模修繕工事は本当に必要か？（躯体劣化防止策としての外装材の修繕を考える）」

・調査結果の確認・・・劣化度はA～Dの4段階評価でB～Cの範囲にあり、向こう3年前後の残存耐久性が認められた。

・劣化と汚れの違い・施工不良、故障等の不具合と劣化

との違い・外装材の残存寿命予測等の理解が深まった。

○2月度の検討テーマ

・「専有部・共用部分の改修工事に関わる管理規約の解釈と運用について」

・窓サッシュと網入りガラス・外壁の室内側仕上げ下地の断熱材・専有部に設置された消火器や各戸が取り付けられた火災報知器 etc.

・給排水設備における専有部の配管改修工事の進め方⇒規約改正により規約共用部として扱えるようにする。

専有部の給湯管も調査の結果、高額な費用をかけずにエポキシライニングによる更生工事が可能（更生工事費の1/3）であることが理解され、来期に計画された。

○3月度の検討テーマ

・「窓サッシュの断熱化に伴う公的補助金の利用について」（正岡智子会員の参加による）

・前回に続き、窓サッシュの断熱化を国の補助金受給の軸に据え、大規模修繕工事と共用雑排水管の改修工事も抱き合わせて補助金受給できるよう、今後1年間管理組合の合意形成を図る。との結論に至っています。

○期待される活動と今後の見通し

今後も上記のような検討会を個々の管理組合に対し継続開催しますが、テーマごとにサーツ会員を専任講師に招き、個々の管理組合向け「出前寺子屋講座」開催活動を展開したいと考えています。サーツ会員の専門タレント活動であると共に、サーツのモットーである市民への啓蒙活動としての社会貢献に繋がるものと考えています。

□サーツ寺子屋オンライン講座のお知らせ

「地震災害に対するマンション生活継続計画」

— 避難所に行かない選択のために —

講師：谷垣正治 会員

2021年4月17日（土）13:00～15:00

「建築はどうあるべきか」

— 小さな声からはじまる建築思想 —

講師：神田 順 先生

2021年5月29日（土）13:30～15:00

注：何れも zoom によるオンライン講座です。

入室ご希望の方は泉清之氏 (k-izumi@psats.or.jp) までご連絡下さい。入室案内をお送り致します。多くの方々のご参加を期待しています。

□ 編集後記：活動自粛の影響で暫く休刊をやむなくされていたが、活動再開のきっかけとなればと、各部会の活動再開の意気込みを集約することにした。意欲的な寄稿で2頁の編集となった。なお、季刊PSATS誌は4月初に冬春号として発行・配布予定（編集担当）

□ 余滴： 交番に届けられたる雀の子 捷三郎
訪れる人を励ます花吹雪 まこと